

研修生 B 「不安を抱いた患者様と関わって」

①患者紹介

Y 氏 50 代女性

家族歴：両親と子供 2 人の 5 人暮らし(夫とは離婚している)。

キーパーソン：娘

本人の性格：人に迷惑をかけたくない。自分の事は自分でできるだけしたい。

前向き。

現病歴：2X 年 7 月頃心窓部、背部痛あり。9 月初旬 U 病院受診。腹部内腫瘍疑いにて Y 大学医学部付属病院へ紹介、CT にて頸部リンパ節腫大あるため、外来にて生検。扁平上皮癌と判明。癌性腹膜炎もあり、腹水貯留あり。原発巣特定の為の PET、胃カメラするがわからず。しかし、進行癌である為化学療法目的にて入院となる。

②受け持つまでの経過

疼痛…背部、腰痛訴えあり。入院前よりオキシコンチン 20mg/日開始。入院後は 30mg/日となり、現在 40mg/日にてペインコントロールできている。

治療…入院後、静脈ポート留置。両側水腎症にて尿管ステント留置。CBDCA-PTX 1 クール目施行。

精神面

《初めの病状説明(告知時)》

表情変わらず、泣いている娘さんを慰めていた。

《検査・処置・治療》

「いろんな検査を受けたりで疲れた。」

「がんばらんといけんね、娘の為に・・・」

③治療方針

CBDCA-PTX 2 クール目終了後 調子良ければ退院。その後は短期入院にて化学療法施行予定。

④看護介入の実際

《アセスメント》

Y 氏から「帰ったら寝てるだけって訳にもいかないし…」という発言から、退院に対する不安があるのではないかと考えた。

《問題点》

退院に対しての不安

《具体的介入》

病気の事、治療の事など、意図的に聞くようにはしていたが、信頼関係が構築されていない状態ではなかなか聞けず。信頼関係を構築するため、日常会話から話した。Y氏の娘さんは午後には必ず来院する為、午前中にY氏と関わるようにした。その際、Y氏に「食事のこと」「治療のこと」「退院のこと」について聞いてみた。

しかし、化学療法2クール目終了し、経過良好、癌もCT上縮小したため退院となつた。実習期間が化学療法翌日から退院後まで空いた為「不安」があることはわかつたが、深く「不安」に対しての気持ちに関われなかつた。

Y氏の退院後「不安」についていろいろ考えてみたが、もしかしたら「医療と離れる不安」「死、病気がこれからどうなるかに対しての不安」などもあったのではないかと考えた。

もし、Y氏が「退院が不安」と言ったときにその言葉をそのままの意味で捉えるのではなく、もしかしたら、その言葉の裏には何かあるのでは、と考えることが出来たらもっと違う関わりが出来たのではないかと考えた。

11月19日、3回目の化学療法にて再入院された。その際、思い切って「家はどうでしたか?」「今一番の不安はなんでしょうか?」「予後や病気について考えたことはありますか?」と質問してみた。

「家はどうでしたか?」については

「帰ってみてよかったです。最初は自分の部屋が2階で、上がるかどうか不安でしたけど、大丈夫でした。」

「今一番の不安はなんでしょうか?」については

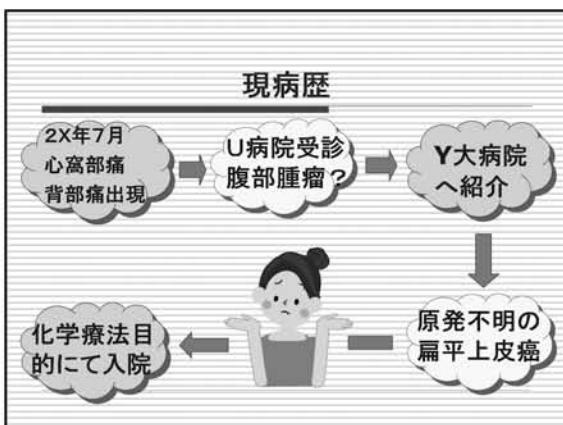
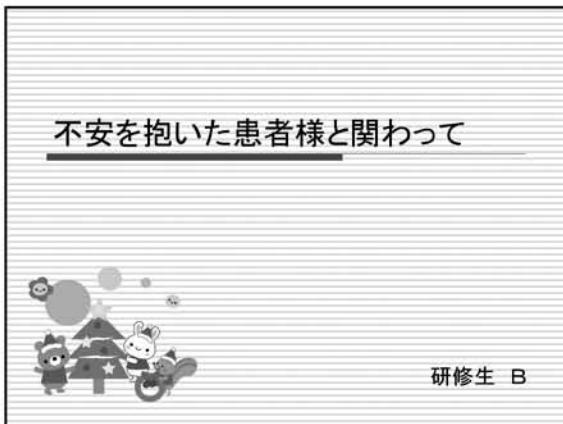
「自分の体力がないからそのことで、もし家族に何かあっても、自分が何もできないことが不安で、心配です。下の子はまだ16ですね。おねーちゃんは成人してるから大丈夫だけどね。(家族のことが大切なのは)みんなそうじゃないのかな?1人じやないしね。」

「予後や病気について考えたことはありますか?」については

「考えたことないです。人はいつか死にますしね、薬も効いてるみたいだから希望もあります。この病気になって1日1日が過ぎていくことがとても大切に思えてます。この病気にならなかつたらそんなこと思わなくって、日々をただただ過ごしてたんだろうなって思います。ある意味病気に感謝ですね。(前向きなんですね。私がそうなったらそんな風には考えられないです)それはなってないからそう思うんじゃないかな?」という答えだった。このことから、Y氏は自分の体より、家族が大切なんだだと感じた。そして病気に対しては受容しているのだと考えた。

⑤学び

今回、Y氏と関わりを持って、とても前向きな考え方をする人だと感じた。ただそこまでに至った経過があるかもしれないが、今回はそこまで振り返って聞く事ができなかつた。もしかしたら本当は“死”に対しての不安があったのかもしれない。もしかしたら、考える事で現実になるかもしれないという不安からいえなかつたもかもしれない。そう考えるときりがないのかもしれないが、私はY氏のその時の表情や、発言から、言葉通りの意味だと受け取つた。そしてY氏にとって私との関わりはそれほど大切ではなかつたかもしれないが、私にとってY氏との関わりは自分の事を思い返すきっかけになり、とても学びの多いものとなつた。そのなかでも傾聴することの大切さを学んだ。ゆっくり関わりを持つ事で、短時間でも相手との信頼関係が築けたのではないかと考える。しかしただ傾聴するだけではなく、その発した言葉の意味を、そこから相手がどのような気持ちで発したのかを常に考えることで、相手と深く関わり持てるのだと、学ぶことができた。



関わりを持つまでの経過 NO1

疼痛…背部、腰痛訴えあり。入院前よりオキシコンチン20mg/日開始。入院後は30mg/日となり、現在40mg/日にペインコントロールできている。

治療…入院後、静脈ポート留置。両側水腎症にて尿管ステント留置。CBDCA-PTX 1ケール目施行。

関わりを持つまでの経過 NO2

精神面

《初めの病状説明(告知時)》
表情変わらず、泣いている娘さんを慰めていた。

《検査・処置・治療》
「いろんな検査を受けたりで疲れた。」「がんばらんといけんね、娘の為に…」

1日目の関わり

□午後よりの関わり
娘さん来院にて、挨拶のみおこなった。少しの時間1人になっていたが、「疲れた」と言われ、入眠された為、関わりを諦めた。

2日目の関わり(Y氏と)

□ 食事について

もともと小食。だが「あまり食べないので点滴をしてほしい」と訴えあり。だが2回目の化学療法後、退院を考えている為、昨日より点滴が中止となっている。

□ 治療について(2クール目の化学療法)

「初めてみたいなものだから。えらいのかな? どうなんだろ? 1回目のはバタバタしてあんまり覚えてないんです。」

3日目の関わり (Y氏と)

□ 治療について

「なるようにならせるしかないね。」

□ 退院について

「終わったら退院...。したいこともあるしね。でも帰ったら寝てるだけって訳にもいかないし...。でも退院したらもう(病院に)来たくないね、ずっと家がいい。」

□ 疾患について

「前向きに生きてます。がん細胞は笑顔が...楽しいことが苦手だからね。アウトドアが好きでね。友達と温泉に行こうっていってます。」

4日目の関わり(娘と)

「色々話が聞けて、がんばろうって言つてました。やっぱり私たちが言うより、看護師さんが言うほうが説得力あるみたいで...」

5日目(化学療法日)の関わり(Y氏と)

□ 治療について

「今日ですね。(薬の)量は同じなんでしょうか? 前は治療して3日目ぐらいから髪が抜けだして...最近はいろいろなカツラがあるからいいですね。今日娘に帽子でも買ってもらおうかしらね。」

□ 退院について

「体力続くかしら...? 今は寒いから、暖かくなるまでは居たいですね。」

今までの関わりを通して....

- 退院について不安の言葉があった。
- 病気や治療に対しては「仕方ない」という発言があった。

Y氏が退院されて考えた事



化学療法目的の入院時の関わり



学び

傾聴の大切さ

その言葉に隠されている意味?

言葉の意味とは?



今後の自己課題

言葉に疑問を持ちながら
傾聴する

ゆっくりと関わられる時間を業務
整理して作るようにする。

化学療法のマニュアルを
自院の病棟で作成する。

